

日本工営株式会社  
2019年10月18日

### 日本工営 スマートシティ開発推進の協力覚書を締結 ～ラオス国ルアンパバーン市、インドネシア国マカッサル市と相互協力～

日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：有元龍一、以下「当社」）は、2019年10月8日にルアンパバーン市（ラオス）、10月10日にマカッサル市（インドネシア）と両市のスマートシティ開発に係る相互協力への協力覚書（Meeting Minutes）を締結致しました。

本締結は、10月8日・9日に開催された「日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル 会合」での成果のひとつとして、国土交通省のイニシアティブにより対象都市と本邦企業間にて実施されたものです。

#### ■ラオス国 ルアンパバーン市

ルアンパバーン市はラオス北部に位置する古都で、市街地全体が文化遺産としてユネスコの世界遺産に登録されています。観光セクターは地域 GDP の約 44% を占め、かつ就業者の約 34% が従事するルアンパバーンの主要な経済活動となっています。また、2021 年開業を目指し中国ラオス高速鉄道の整備も進むなど、今後の観光客の増加が見込まれています。当社は、同市において 2018 年から「JICA ルアンパバーン世界遺産の持続可能な管理保全能力向上プロジェクト」を実施しており、世界遺産の維持管理、観光開発を進めています。その上で当社は、新たなモビリティ導入や MaaS 等の交通サービス導入も視野に入れながら、旅行者にとって快適かつ持続可能な交通体系の構築を目指し、交通分野に関して協力していきます。



ルアンパバーン市街地の様子

#### ■インドネシア国 マカッサル市

マカッサル市は東部インドネシア最大の都市で、ヘルスケアの向上と電子行政システムを通じた公共サービスの向上をスマートシティ開発の主要な課題として挙げています。当社からは、公共サービスの中でも問題が顕在化している交通分野と遠隔医療に関する協力を提案しました。今後マカッサル市の要望に応じて、他セクターを含めた公共サービスの向上に資する協力内容を取りまとめていきます。



マカッサル市  
スマートシティ・オペレーションセンター

今後、本協力覚書を元に、具体的な取り組みが担当者間にて協議及び実施される予定です。当社は総合コンサルティング会社として、国内関係省庁及び民間企業と連携し、上記セクターを含めた両市の包括的なスマートシティ開発の推進に貢献していきます。

—本件に関するお問合せ先—

日本工営株式会社 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

TEL :03-5276-2454 Email : c-com@n-koei.co.jp ホームページ : <https://www.n-koei.co.jp/>

■ 署名時の様子



左：ルアンパバーン市 スマートシティ開発担当者  
ヴァッチャ氏  
中左：ルアンパバーン市 バンドラック市長  
中右：日本工営 交通・都市事業部開発計画部 課長 平野邦臣  
右：日本工営 交通・都市事業部開発計画部 技師補 武藤 晃史



左：マカッサル市スマートシティ開発担当者 ハットウ氏  
中：日本工営 交通・都市事業部交通計画室 課長 戸谷浩也  
右：マカッサル市スマートシティ開発責任者 ハジアリ氏